

校報 まきがね

恵那西中学校だより 第5号

令和8年7月17日（金）発行



「安心と成長の1学期」

校長 工藤 博也

7月7日、3年生の学年合唱を聴く機会がありました。合唱は、その集団の姿を映し出します。協力し合える集団なのか、時間や約束を大切にできる集団なのか、一人一人がどのような思いで学校生活を送っているのか。そうしたことが歌声から伝わってきます。

今回の合唱では、よく響く声だけでなく、少し苦手な人の声も優しく包み込むような温かい響きがありました。その歌声から、互いをおもいやり、支え合いながら日々を積み重ねてきた姿が想像できました。

また、1年生を迎える会以来、3年生が「学校の顔」であることを意識し、合唱練習をやり切ってきたことも伝わってきました。「誰かが声を出してくれるだろう」ではなく、「自分から声を出そう」という一人一人の主体的な気持ちが、力強く美しい響きを生み出していました。その姿は2年生、1年生にも広がり、合唱は今や西中が誇れるものの一つになっています。

その背景には、「おもいやり」「やりきり」「じりつ」の三つを大切にした日常生活があります。こうした積み重ねが、誰もが安心して生活できる学年・学校づくりにつながっています。そして、その安心感があるからこそ、「よし、本気になってみよう」と一人一人が挑戦し、さらに集団として成長していくことができるのだと感じました。

さて1学期が終わりを迎えます。各学級では1学期を振り返り、自分たちのよさをたくさん見つけることができたのではないのでしょうか。生徒会をはじめ、各学年・学級のリーダーが中心となってリーダーシップを発揮し、一人一人が「なりたい自分になる」ことを目指して歩んできました。これからも西中のよき伝統を築きながら、仲間とともにさらに成長していくことを期待します。

■■■本物の自律が試される夏休み■■■

名古屋大学病院の研究グループが、いわゆる「やる気スイッチ」の仕組みに迫る成果を発表しました。将来、やる気を自動的に引き出す方法が解明されるかもしれません。しかし確かなのは、やる気は誰かに押しってもらうものではなく、自分で働かせる力だということです。



学校生活で「自分から」を意識して取り組んできたように、目標をもって自律的に生活することが大切です。特に、時間を自由に使える夏休みは、本物の自律が試される期間です。学習に限らず、自分の力を伸ばせると感じることを見つけ、じっくり取り組んでみましょう。また、今年の夏休みは44日間と長期になります。体調管理や熱中症対策を怠らず、交通事故や水の事故にも十分注意し、安全に過ごしてください。充実した夏休みになることを願っています。